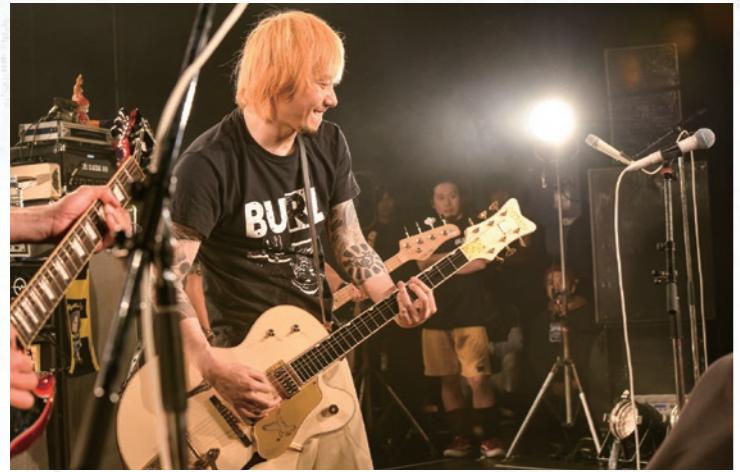


政治と、ぼくがやっている音楽は地続きだから

ゲスト 横山健

ミュージシャン／Ken Yokoyama／Hi-STANDARD／BBQ CHICKENS

聞き手：Misao Redwolf（首都圈反原発連合）



原発が必要だと言っているやつがまだいるんだ？

Misao 東日本大震災が起きた2011年3月11日ですが、横山さんはどこで何をされていましたか？

横山 震災の日、ぼくは後輩の結婚式に出席していて青山にいたんです。披露宴で乾杯の音頭をとった途端に、揺れたんですね。すごい揺れでビックリして、これはただごではないぞとわかりました。でも、「この建物は耐震で作られているので大丈夫です」という会場アナウンスがあり、なぜか、そのまま式をやりましたね。みんな事の重大さに気づきたくないような空気でした。夕方6時頃に車で帰路につきましたが、すごく渋滞して、ようやく家に帰ってテレビをつけて、大変なことになっているということを認識したのは、夜の10時半頃でしたね。

Misao そのときは、福島の原発のことは頭にありましたか？

横山 まったくなかったです。原発というものがこの世に存在しているとか、そういうことは考えて暮らしていなかつたですね。でも翌日、福島第一原発1号機が爆発して、電源喪失だとなんだかニュースでやっていて、「 Chernobyl 」みたいなことが福島で起こった。もう原発なんかあってはダメでしょう」と思ったんですね。普通そう思いますよね？ で、ツイッターでつぶや

いてみたんですが、ものすごく叩かれたりしました。

ツイートするまでに何日かは考えました。「代替案をだせ」とかものすごく叩かれましたが、「代替案だとエネルギー問題だとか、そんなものはこの危なさに比べたら大らしないじゃないか」と思つたんです。8年経つともその感覚ですし、小難しいことは一切考えてなくて、正直言って「原発問題まだやっているの？」、「原発が必要だと言っているやつがまだいるんだ？」と思っています。

ぼくがステージで発信することで誰かを傷つけている

横山 ぼくはぼくの正義にのっとって、「原発はいらない。いますぐ止める方向に舵を切らない」と言っていました。でも、ライブで日本中を回っていると、親御さんが東電で働いていた子が、お客さんとして普通にいるわけですよ。そういう子が、自分の人生を汚されたような気持ちになって、ライブにこなくなっちゃったんですね。ぼくには、それが悲しかったんです。ぼくがステージで発信することで、ぼくは誰かを傷つけている。

そのことがあってから、もう言いたくないなと思ったんですね。それをプライオリティの一番に置くのはやめようと。自分は問題意識をもっているし、問題意識ということで提示することはいいけれど、原発、東電に特化した発信をするのはやめようと思いました。原発事故直後の一連のSNSなどのやりとりでも、そういう人はいましたね。「自分は、東電のお金でここまで育ったので、原発はよくないと思いつつも、どうしたらいいのかわかりません」といったかんじで。そういう人今まで、「それはアンタの弱さだよ」と切るわけにはいかないんですよね。ぼくは切れないです。

原発に関しては、あんなものはよくないに決まっていますよね。ただ、あんなものはあっていいわけはないという原始的な思いと、そういうふうに思うことで誰かを汚すこととしたくないなという思いの間で、自分ができる発信をしていっている感じですね。だけど、ちゃんと考えると、政治と、ぼくがやっている音楽は地続きだから、音楽以外のことをやって色々言われたりしても、だって音楽って生活の一部じゃんと思つたりするんですね。ただ、言い過ぎると自分のファンだけでなくても傷つく子たちがいるとわかったし、SNSを使って吠えることではないなというふうに着地しました。

NONUKES ENERGY AUTONOMY



美しい日本を取り戻す

横山 選挙のあり方なども含めて、この国の法律のあり方に、いろいろ無理があるなと思ったりするんですね。全生活者が満足するシステムなんて、もしかして作れないのかなとか、最近よくそんなことを思つますね。本来は政治家の人们は、そういうことを考えるのが仕事じゃないですか。われわれなんて、ぼさーっと生きているだけでいいのに。もっといい、強力なリーダーシップを發揮してくれる人が出てきたりとか、どうにかならないものですかね。

Misao いま過渡期で、転換をうまくしていかないとヤバいかなと思うんです。これから人口が減少する中で、若者たちがどう高齢化社会を支えていくのかとか。

横山 そもそも、年金だって親の世代にとっては神話だったわけじゃないですか。それが、ぼくたちの時代になつたら年金が受け取れないとかあるわけで、「政治って機能しているの？」、「政治家っていうの？」、「一回ぶっ壊して日本やめない？」みたいなことになりますよね。結局、いまだに敗戦国なんですよね、日本って。やはり安保があるうちはダメですよ。日本は独自の発想なんてできる国ではないですね。

Misao 私も同じ考えです。安倍さんがしているのは、アメリカの植民地的な振る舞いだし。この島に住んでいる人たちの誇りを取り戻していかないと。

横山 それを取り戻すには安倍さんではないですね。「美しい日本を取り戻す」とかいってるけど。日本には2000年以上も連綿と続く伝統があるし、ぼくはあらゆる宗教を信じませんが、八百万の神がいて、桜はきれいだし、日本人って慎ましやかで勤勉ですごくいい。何しろ自分の生まれた国だしね。「美しい日本を取り戻す」って言葉は素晴らしいと思ったんですけど、結果がこれではね。

Misao 本当に「日本を取り戻す」には、安保を白紙撤回して、永世中立国化すればいいと思いますよ。小さい国だから、そうやって防衛することも理にかなっていると思います。

横山 小さいときからぼくも、「永世中立国」は気になつていました。社会の授業で、スイスは永世中立国なんだと知るじゃないですか。「なんで、日本はそうできないの？」と不思議ですよね。経済を成長させるには、ある程度のことを犠牲にしていく必要があったのかもしれません、それはもう頭打ちだということはわかったじゃないですか。日本は中国にも経済では勝てないんですよ。だったら、いま変換して、永世中立国になりましょうよ、日本は。まずは安保を破棄して、永世中立国に！

ギターを膝に置いて弦を弾く行為

Misao 横山さんは音楽も続けてこられて、PIZZA OF DEATH RECORDSの社長としても20年を迎えます。生きていく上で、大切にしたことは何でしょうか？

横山 ことで、ぼくは50歳になるんですね。あきらめたわけじゃないですが、ぼくら程度のものでは結局、肩に力を入れても何もできないんだなというのが、ここ数年の実感ですかね。震災があつて原発事故があつた直後は、子供たちに何を残すんだという強い気持ちがありましたが、それは心の中に置きつつも、おれはおれの人生をまつとうしようという、最近はそんな心境ですね。一番大切にしていることといえば、やはりギターを膝に置いて弦を弾く行為、これを大切にしようと思っているぐらいです。

30代後半とか40代くらいのときは、闘争心という何かメラメラしていて、「ぼくたちの世代はこの日本をどう支えるんだ」みたいなことを考える心の体力があつたけど、50になってくるとなんていうのかな、結局、自分に向っていくというか。もしかしたら仙人になってきているのかもしれませんね(笑)。日々の発信の仕方が少し変わったりとか、ものごとの日常の大なる重心が少し変わったりとか、そういうことはあります、音楽に関しての温度はメラメラしていますね。

Misao 震災と原発事故は、Hi-STANDARD復活も含め、横山さんに大きな影響をもたらしたのではないかでしょうか？

横山 活動はもちろん、思考もずいぶん変わりましたし、すごく大きなできごとでしたね、過去形にしてはいけないのかもしれません。あれがなければ、ぼく自身も違った人生になつたわけですから。Hi-STANDARDは日本のためにまた集まつたんです。ぼくは本当はイヤだったんですが、やるしかないと自分で決めたわけです。そのときは自分のためではなかったんですが、あれからずいぶん時間が経つて、いまはHi-STANDARDが自分のためにやれているバンドになったんです。

第一に被災者の方々、それからいまでも震災のことなどで一生懸命やられている方々を傷つけたくはないんですけど、ぼくはHi-STANDARDを震災バンドにしたくなつたんです。震災をきっかけにまた動かせたんですが、気持ちがついていかなかつた。でも、はじめた以上は、どうしたらハイスタイルとして、ぼくはハイスタイルでいることに格好がつけられるのかと考えたら、やはり自分のためにやるしかないわけですね。

大義があつて再結集したバンドではあるけど、大義なくやれるようになります。すごく刺激的な言葉でありよくないかもしれません、そういうふうに思つた、何か起つたら動くというようなバンドにはなりたくなつた。いまはそうではなく好きなペースでできるので、それはすごくよかつたなと思っていました。それはそうと、ここにある『NO NUKEs PRESS』に「現在稼働中の原発9基」と書いてあります、まだ9基も動いていますね。

[横山 健 (Ken Yokoyama / Ken Band) OFFICIAL SITE] <https://kenyokoyama.com>

[PIZZA OF DEATH RECORDS] <https://www.pizzadefath.com>



インタビュー全文はこちらでご覧いただけます

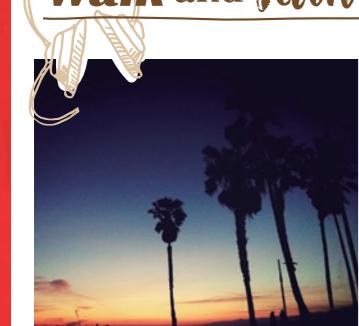
<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=12739>

次回予告 NO NUKEs! human chains vol.10 (2019年10月号掲載)

このインタビュー・シリーズでは、ゲストのかたに次のゲストをご紹介いただきます。横山健さんからは、石井麻木さん(写真家)をご紹介いただきました。

Walk and Talk it

原因と責任を明確にしないこの政権の終焉を —— 記録映画『LA 92』



ロス暴動を題材にした記録映画『LA 92』(2017年)で、後半に大統領選を控えたジョージ・H・W・ブッシュ大統領の実際の声明発表の映像が挿入されているが、そこに暴動の発端であるロス市警側の暴力への見解、怒りの当事者であるアフリカ系アメリカ人への言葉は全くなかった。【我々がLAで見たものは公民権についての問題ではありません/暴徒による純然たる虐行行為です/暴力がなくなれば正義がもたらされ、希望が戻ってくるのです】。今年6月に閣議決定された「平成30年度エネルギーに関する年次報告」=「エネルギー白書」では再生可能エネ

の比率を高めるのは難しい、と表記された。昨年7月の「エネルギー基本計画」では再生エネの比率を2030年に最大24%にすることを掲げており、その実現さえも難しい、という表明である。日本は単位面積あたりの電力需要が大きいため、としているのだが、「系統接続」において原発を優先している以上、比率を高める努力さえしていないように見え、参院選前のこの表明は、経済界からの原発再稼働の要請の結果としか思えない。ロス市警の暴力に声明で触れたかったブッシュは大統領選に敗れた。他のイシューにおいても原因と責任を明確にしないこの政権を、一日も早く終焉させたい。(TH)



Ken Yokoyama Self Compilation Album 『Songs Of The Living Dead』

PZCA-85 / ¥2,500 (without tax) Now On Sale
PIZZA OF DEATH RECORDS



Track List

- 1. I Fell For You, Fuck You
- 2. My Shoes
- 3. What Kind Of Love
- 4. My Day
- 5. Nervous
- 6. Don't Want To Know If You Are Lonely
- 7. Swap The Flies Over Your Head
- 8. If The Kids Are United
- 9. You're Not Welcome Anymore
- 10. Walk
- 11. Sayonara Hotel
- 12. Going South
- 13. Brand New Cadillac
- 14. Dead At Budokan
- 15. Hungry Like The Wolf
- 16. Nothin' But Sausage
- 17. Living After Midnight
- 18. A Stupid Fool
- 19. A Decade Lived
- 20. Soulmate

編集後記

7月4日に、参院選が公示されました。『原発ゼロ基本法案』を国会に提出した立憲民主党、日本共産党、社会民主党に加え、「2030年代原発ゼロ」を掲げる国民民主党が野党共闘の構えで、自公政権に挑んでいます。加えて、「原発即時廃止」を掲げるれいわ新選組も新しい風を吹かせていますが、相乗効果で脱原発の圧倒的世論を無視する安倍政権に、打撃を加えてほしいところです。

今月号がリリースされる頃には参院選の結果がでていますが、いかなる結果でも、私たちは「再稼働反対」「原発ゼロ・エネルギー政策の転換」を、毎週金曜の抗議で路上から訴えています。みなさんもどうかご参加ください。世間では福島第一原発事故の記憶が薄れつつありますが、語っていくこと、訴えていくことで、有機的な取り組みにしてゆきましょう！